

# 朝日寺だより

## 新年を迎えて



住職 若松隆英

檀信徒の皆様、明けましてお目出とごさいます。新しい年を心も新たに色々な期待を込めて迎えられた事と思います。本年が皆様にとって幸多い年であり、また心より祈念申し上げます。

平成三年は皆様に様々な思い出を残された事と思います。朝日寺にとりましても六月に四国八十八ヶ所のお砂ふみ霊場が境内に誕生いたしました。どこにも例を見ない立派なものです。しっかりと檀信徒の方にお詣りしていただきたいと思

今年六年がかりの懸案である客殿の修復が始まる予定です。立派な姿が蘇る事でしょう。平成という年号も四年目すっきり耳に馴染んだ感じが、朝日寺の誕生は養老二年(七十八年)ですからもう千二百年以上経った事になります。その長い歴史の中で寺自体幾度かの栄枯盛衰を繰り返しましたが、寺の色々な行事も変遷を重ねた事と思います。今、続く行事の中にも意味が薄れ形だけになっているものもある様です。主なる行事とその意味を簡単に書いてみたいと思ひます。まず年末年始の行事としては除夜の鐘があり、一年間に身や心に付いた垢を清らかな鐘の音で取り去って新しい年をきれいな身で迎えるという事です。福も汚れた身には宿らないというわけです。新年早々、年頭のお札を持って檀家をまわりますが、このお札は寺の本尊お薬師さんに檀信徒の方々がこの一年無事安泰である事を祈願したものです。家の玄関口に平安を願って貼つけていただきます。

達がすく／＼と育つ様という親の願いを込めた行事といえます。

七月の最終の日曜日には「よみあげ」があります。過去一年間に亡くなられた方々の供養の行事ですが、この行事を経て正式に寺の過去帳に記載されておまつりがされるという事になります。亡くなられた方と縁のあった人々が集まり供養の気持ちを込めてお賽銭をお堂めぐり投げます。お盆には棚経に各家をまわります。先祖からつながる自分の命を自覚し先祖に感謝する一時かと思ひます。また米初穂、麦初穂というものがあります。

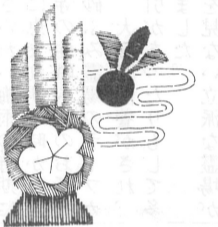
これは天地の恵みに感謝し、収穫した初めてのものを寺にお供えするという事です。それに対して寺から暑い夏を、又寒い冬を無事に過す様に祈願したお札をお渡し致します。寺独自の行事ではありませんが、土砂加持という法会が一年に一度あります。結果寺院十四ヶ所が一年に二ヶ所づつまわり番で勤めるものですが、檀家の総先祖供養といえるもので、平成六年がその当番の年になります。一年の計は元日にありと申します。決意のない所に成就もありません。皆様の健康とご活躍をお祈り申し上げます。

## 年頭のご挨拶

総代長 島岡 篤

明けましてお目出とごさいます。謹しんで新年のご挨拶申し上げます。旧年中はお寺の行事につきましても大変なご協力を戴きありがとうございました。一昨年の裏山の復旧工事は三月末で完成する事になっておりましたが、久久町全域の災害が多かった為か工事が進まず困っておりまして五月八日の花祭りまでには完成せずと話し合いが出来ましたので計画通り高野山詣りを三月十五日出発一泊二日で行いました。信貴山へ登り高野山へ八十名と云う大勢でお詣りして来ました。二日目の高野山では朝から雪で寒い一日でしたが珍しくと云われる高野山の美しい雪景色が見えありがた二日間の旅でした。五月八日の花祭りにはお砂踏の施設も出来お渡り式を思っております。

英会 印刷  
隆代 山印  
松山 奥  
若総 奥  
発行 印刷



したがご承知のように雨又雨と工事が遅れ六月十五日の弘法大師生誕の日まで延びてしまいました。皆様の御寄付を戴いたお陰で立派な四国八十八ヶ所の霊場が出来上りました。お渡り式には二百五十名と云う大勢のお詣りがあり盛大なお渡り式が出来ました。このお渡り式には特に密教婦人部の役員の方々に大変なご協力をいただいた事を紙上をかりまして厚くお礼申し上げます。十月七日から二泊三日で第一回目の四国霊場巡り(徳島県)を実施しました。四十九名と云う参加者で盛大に巡って参りました。十一月から客殿の葺き替えの準備にかかり、寺山の檜を修理に役立てようと思ひ伐採をいたしております。平成四年の計画と致しましては早速一月十五日お砂踏み行事今年の場合には寺のお祭りとして行い積りてごさいます。この事については別の項でご案内いたします。昨年は高野山詣りがありましたので実施出来なかつたのですが今年五月下旬位に一日旅行を計画したいと思っております。十月には第二回四国巡り(高知県)を行います。今年には客殿の葺き替え(客殿本体の傾いているのを起して瓦の葺き替え)と云う大工事があります。十月頃工事にかけ、平成五年春完成予定でございます。総代会も今年は大工事もあり行事が山積しております。一つ一つ確実に消化し朝日寺の繁栄に全員が全力を尽くして参る所存でございます。今後共ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが皆様の健康とご多幸を祈念いたしましてご挨拶いたします。

## 四国八十八ヶ所巡り

間口 山田 武雄

十月七日午前六時早島インター到着、大橋上より見渡す銀板のような海面、霧のかかりて薄曇りにはかしたる大島小島、行交う舟も少なく得も言われぬ美しさ、是ぞ一期一会の景と言ふべきか。

次のお寺へお詣りしてから大窪寺へ。この度私は三度目であるが、十年程前、今の参道は大きな杉が立って居た。二度目の時は道が付けられて居た。三度目に見れば見事な山門仁王像(結願の寺) 参拝終えて昼食又山越えて徳島の平野へ出る。吉野川を右に渡り左に渡り山へ登り、第一番霊山寺へお詣りした時はすでにたそがれ門内で家鴨が十羽ばかり迎えて呉れた。六番札所安楽寺へお宿を借り。大きなお寺で昔の宿屋とお寺をくっ

## ご挨拶

密教婦人会々長 山本喜世子

あけましておめでとごさいます。謹んで新年の御挨拶申し上げます。昨年は延び延びになって居りましたお砂踏の工事も無事完成し、盛大に渡り初め式が行われ、約二百人もの善男善女の方々のお詣りを頂くことが出来まして、厚く御礼申し上げます。お大師様お誕生日と云うことで、六月十五日に梅雨の最中ではありましたが、お天気にも恵まれ喜ばしい限りでした。そして、御詠歌の流れる中での護摩供養は、心の中で、洗われる様な気が致し



結願寺 大窪寺にて

ました。この様にすばらしい儀式に参加出来て、本当に伴に感じました。そして十月の四国霊場巡りと続き、十二月十七日には、密教婦人会主催と云うことで、「精進料理と映画鑑賞のたび」を致しました。映画は、日中国交二十周年記念映画の「曼荼羅、若き日の弘法大師、空海」そして精進料理は、雪舟ゆかりの宝福寺で戴きました。皆様方の御協力で四十数名の方々の御参加を頂くことが出来まし

て、心より御礼申し上げます。昨年を振り返って見ると、皆様方の御協力と御支援があったからこそ、充実した一年が送れたんだと感謝して居ります。今年も一月十五日にお砂踏みが行われます。皆様どうぞお揃いでお詣り下さいませ。皆様方御礼申し上げます。今後共密教婦人会をよろしく御支援下さいませ。最後になりましたが、皆様方の御健康と御多幸をお祈り致します。

## 般若心経と私

大土井 児 玉道子

世の無常を生者必滅会者定離という言葉であらわしています。それは誰でもよく知っております。私自身もよく弁えていたつもりでした。しかし夫の命が一瞬にして私の目の前で消えていった時、思わず「しまった」と心中に叫び慟哭してました。治そうと一生懸命病苦に耐えていた私、現代の医療を信じ切っていた私達でしたがすべて無に帰してしまいました。

○身のこなし緩慢くともよし夫看取る日をわが生きの命安かれ

○氣遣へば身をいとへと病夫言ふ互みたがいに身を案じつつ頼みの綱を手練るような療養の毎日でしたが虚しく終りました。

○その朝を立ち茶柱吉兆と特みりしに一夜の明けず

○帰らしたし恋ひしわが家に亡骸となりて戻るを濃霧は閉す

○もう一度家に帰りたいと、ぼつりと言わず出て来た我家でした。少しも思わず般若心経追悼和贊の声をふわけて透るは曾孫の声

○赤旗を持つ曾孫が六人出来たと喜んでいて、主人でした。葬儀の日順番に並んで自分達で整理して、六人の曾孫は赤旗を持ちました。主人も満足して思ひました。葬儀の際には無中で過ぎました。一段落するの虚しさも占めてのききました。何をやる気力もなく只ぼんやりと過す日が続きました。

○こんな氣弱な自分ではなかつた、これでは主人も成仏しきれないだろうと気がつき、氣を取り直して仏教の本を読みました。そして連夜毎にお勤め下さるお住職のご法話を聞き仏前に般若心経を唱えました。そのうちに、大師と般若心経のお教えが分るようになりました。中でも特に「色即是空、空即是色」の一句で年になつてやつとそこを辿り着いたのです。経文には「色は即ち是れ空、空は即ち是れ色受想行識も亦た是の如し」とあり、簡単に要約しますと、物が存在するから色は変化して、変化が存在であるから存在は変化であり、変化が存在である。

※裏面に続く